



やがて、一人の子どもが手まねきをすると、はずかしそうに、男の子はみんなの方に歩き出しました。

しばらくすると、また、にぎやかな遊び声が聞こえました。そのなか

は、先ほどの男の子の楽しそうな声もまじっています。

この話からもわかるように、富三博士は、小さいころから思いやりのあるやさしい心の持ち主でした。また、だれとでも分けへだてなく接する少年でした。

これは、博士が有名になってからも変わリませんでした。時々、浅川町に帰ってきてても偉ぶったりすることなく、誰とでも気軽に話をしていたということです。